イエスは主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充満・献身・奉仕　185号

「永遠の命に至る食物」

（聖書・ヨハネ福音書6：22～33）

安藤　脩

猛暑続きで毎日のように、熱中症で多くの人が病院へ救急車で運ばれています。死者も出ています。家の中にいた老人がぐったりしているので病院に運んだけど、もう間に合わず死んだというニューも度々あります。皆さんは守られていますか。こまめに水を飲むことが大事と言われています。

身体に起こることは、心にも起こることを知っておきたい。こまめに霊の水を飲まなければ、知らないうちに、霊的脱水症状になってしまうのです。

イエス様は先に、サマリアの女に「この水を飲む者は誰でもまた渇く、しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」（ヨハネ4：13～14）と言われました。今日の聖書箇所はその食物版です。

イエス様がパンの奇跡を行ったことは、すぐ周囲に知れ渡りました。翌日にはそれを聞きつけて、ティベリアスからも数艘の舟に乗って、人々がイエス様を尋ねて来ました。しかしそこには、もはや弟子たちもイエス様も居ませんでした。そこに前日から居た人々が状況を話しました。でもとにかく、イエス様は今ここには居ない。仕方がないと、あきらめたかとういと、そうではありません。彼らは粘り強くイエス様を探しました。せっかくの金づる、いえ、「食べ物がない」と不安になることのない、命綱を見つけたのですから。

熱心にイエス様を捜すことは良いことです。しかし、イエス様はこの人々の目的を見抜いておられました。「はっきり言っておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ。」（：26）と、更に「朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい。」（：27）と言われました。「朽ちる食べ物」とは、肉体を生かす食べ物のことです。そしてこれはこの世的な欲望のことを指しています。この世的欲望に従って働くのではなく、「命に至る食べ物」天的な望みに向かって働きなさいと言われます。そしてこの「命に至る食べ物」は「人の子（イエス様）があなたがたに与える食べ物である。父である神が、人の子を認証されたからである。」（：27後半）とあるように、イエス様が与える食べ物とは、イエス様御自身です。イスラエルの民が出エジプトのとき食べた、肉体を生かすパンではなく、天からの真のパン、「わたしが命のパンである。と言われた、神の言葉であるイエス様を食べましょう。

（日本基督教団横浜岡村教会牧師）

霊想

「隠れた祈り」
マタイ福音書6章1～8節

東京聖書学校教師
西海　満希子

マタイ6章は5章からのつながりで主イエスが山の上で語られた説教の中の一部分です。主は多くの群衆に語られたとありますが、直接的には弟子たちがみもとに近づいてきたので弟子たちに語られたということです。特にマタイ福音書は旧約聖書と新約聖書を結ぶ架け橋のような書物です。この山の上の説教は特に新約聖書の新しいメッセージが明確な形で語られていると言えると思います。5章の後半では旧約聖書をモットーとして生きている律法学者やファリサイ人を意識しながら、新しい主イエスの教えが律法をないがしろにするものではなく、返ってそれを成就するものだとして、イエス・キリストの教えが旧約聖書と無関係ではなく、それを実現するためのものだと教えられました。

6章の1節からは宗教的な行為としての施しやお祈りが人の前の見せかけになることの危険性について語っています。ユダヤ人は人びとの関心を引くために人の前でお祈りをしたり、善行をしたりすると言う事があったようです。（ルカ18：9参照）ですから、マタイ福音書では宗教的行為としての善行もお祈りも右の手のしたことを左の手に知らせないように、又お祈りは人前ではなく隠れたところでお祈りをしなさいとすすめているのです。

隠れたところにいます神にお祈りをするという事は何を意味しているでしょうか。ユダヤ人にとっては神の存在は当たり前のこととして受け入れられていました。しかし、異邦人である私たちはまず、人格を持っておられる唯一の神の存在を知るところから始めなければなりません。ヘブライ人への手紙11章6節に「信仰がなければ神に喜ばれることは在りません。神に近づく者は神が存在しておられること、又、神はご自身を求める者たちに報いてくださる方であることを必ず信じるはずだからです。」とあります。

キリスト者は神の存在は認めています。しかし、神にご挨拶程度のお祈りをしてすませているのは本当にお祈りを学んでいるとは言えません。クリスチャンの信仰の成長はお祈りと共にあるのです。困難に会った時に祈る。迷いを感じた時に祈る。そして自分の為に祈るのみではなく、人の為に祈る所まで成長させていただくのです。アシュラムのレビの時はこの祈りの訓練を重ねるときでもあります。「隠れた祈りとは自分と神様とが一対一で向き合い、心を注ぎ出してお祈りすることを意味しています。E・M・バウンズは祈りについて「祈りは世界を形成する」（「祈りの目的」参照）と語りました。神様は私たちの祈りに期待し、祈りを通して世界の救いを進めようとされているのです。神の手を動かす祈りを修練したいものです。このような祈りは人に見せるためのものではなく、又自己満足の祈りでもありません。

今一つ最後にマタイ6章7節に「くどくどと祈るなという言葉に心を向けたいと思います。これは、祈りは言葉数によってその効力が生ずるのではない、という事です。むしろ、祈るものの心が神のみ旨を捉えると言う事が大切なのではないでしょうか。あの旧約聖書のエリヤのお祈りを思い出しましょう。バアルの預言者たちは熱心に祈りましたが、エリヤの一度の祈りに届きませんでした。祈りはもちろん熱心であることは良いことですが、熱心さが答えを引き出すのではなく、神様が答えてくださる祈りをすると言う事が重要なことではないでしょうか。自らの祈りを振り返って、あまりにも自己中心的祈りにこだわり、神のみ旨に深く沈潜し、聖霊の呻きに沿う祈りの少ないことに驚くばかりである。

立証

「魂を癒されて献身」

小樽ホーリネス教会牧師
塩屋　証

私のアシュラムとの出会いは、大学3年生の時、母に「みことばに静まれるから」と誘われて第四十五回九州アシュラムに行ったのがきっかけです。当時の私は、みことばに飢え乾いていました。1つは、進路のこと、そしてもう1つは、人を愛することのできないことへの葛藤からでした。私はその年の3月、私の愛する祖父を殺されるという経験をしました。ニュースにもなったこの事件の裁判では、天国にいった祖父の誠実さを知れたと同時に、加害者である人の上辺だけの態度に、怒りを通り越して、あきれる思いがしました。

祖父が殺されてから、テレビをやドラマでも、人が死ぬシーンになるとテレビを消すようになりました。小さい頃からいつも祈っていた「我らに罪を犯すものを、我らが赦すごとく」をそうやすやすと祈れな

いものになりました。

　み言葉に飢え乾いていた私は、できる限り集会に出席し母に誘われて「九州アシュラム」に行き、静思の時にヨハネによる福音書20章−23のみ言葉が与えられたのです。そこには、「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でもあなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る」（23）という所でした。いつも読み飛ばしたい箇所でしたが、「アシュラム」という集会の中で、み言葉と向き合わざるえなくなり、向き合えば向き合うほどに「私は絶対に加害者を赦せない」と自分の思いがあることに気づきました。

　静思の時の分かち合いで、「私は祖父を殺した人のことを赦せません」と告白しました。しかし、わたしの分かち合いの後であった先生が、「イエス様はあなたがたに平和があるように」（19）と書いてあるのだと優しくおっしゃいました。そのみ言葉を聞いたときに、事件のことや進路のこと、わたしが敵を赦すことのできない罪人であること、私の全てを神様はご存じで、赦すことのできない私の罪の為に十字架にかかり、命を捨てて、復活し、「平和があるように」と、私の罪が赦されていることを知りました。主に赦されている。イエス様の平和に出会った時に、ただただイエス様からの感謝と平安が溢れてきて、涙が流れました。それは、同時にこの神様に人生をささげていきたい。私の残りの人生を献げようと決意をしました。

　私をアシュラムに導き、私自身の深い所を探り、癒して下さったイエス様に今も感謝しています。

西川口教会アシュラムの恵み

佐々木健至

　7月16日（土）午後1時半から午後5時半、7月17日（日）午前7時半から主日礼拝まで、第41回西川口教会アシュラムが開催されました。主題聖句は「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」（マタイによる福音書第6章33節）でした。講師は金田佐久子牧師。参加者は16人でした。

　私が西川口教会のアシュラムに参加させていただいたのは、これで2回目になります。にもかかわらず、今回、礼拝教育担当の役員ということで初めて家長を命じられ、戸惑いましたが、金田先生に助けられて何とか全うすることができました。

　第1日目、最初の静聴のとき、マタイによる福音書第5章を黙読しました。3節から11節の聖句から、自分がどれだけ神の教えに沿って生活しているだろうかと考えさせられました。これも主の恵みだと私は思いました。次に心に響いた聖句はマタイ福音書第5章44節から45節です。「しかし、わたしは言っておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。あなたがたの天の父の子となるためである」。

　2日目の静聴のとき、マタイ福音書第6章を黙読して示された御言葉は、15節「しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない」。このような御言葉を与えられ、感謝です。

　ファミリー（小グループ）の祈りのカードを作りました。祈ることを忘れずにいられることが幸せです。今回は3つのファミリーでアシュラムを行うことができました。

　申し込んでいたけれど欠席の方もありましたし、2日目から参加した方もありました。それぞれに主の恵みがあったと思います。教会アシュラムで聖書を読むときは、家で聖書を読んでいるのと違い、何か心に感じるような気がします。それは、参加した人たちが心を合わせて同じ御言葉を聴いているからだと思います。ぜひ皆様も来年の教会アシュラムに参加したらよいと思います。

　皆様に神の祝福がありますように。アーメン。

第31回浦和別所教会アシュラム報告

浦和別所教会伝道師　澤田石　秀晴

―みことばに聴く―　報告

　去る6月4日午後から5日午後までの日程で、浦和別所教会でのアシュラムを開催致しました。今年度は、当教会での懸案事項である新会堂建設とその後の伝道活動を見据えて、「キリストの体なる教会を建てよう」を主題として掲げました。この主題のもと西海満希子牧師をアシュラムの導き手としてお迎えし、霊的な指導をしていただきました。以下に概要を記します。

【1日目】（6月4日）

○開会礼拝（19時〜20時）

　エフェソの信徒への手紙1章1〜14節から、「キリストにある選びの恵み」と題して西海先生からメッセ

ージを頂きました（次から、聖書箇所はエフェソ書と記します）。

○開心の時（20時～21時）を3グループに分かれてもった後、自宅に戻り、連鎖祈祷に入りました

【2日目】（6月5日）

○恵みの分ち合い（9時30分～10時20分）

昨日からのアシュラムで示されたことや新しい気付きについて分ち合いをしました。

○主日礼拝（10時30分～12時）

西海満希子先生からエフェソ書4章17～32節をもとに、「心の底から新たにされて」という題でメッセージを頂きました。23節の「心の底から新たにされて」との御言葉に強い迫りを感じる礼拝でした。

○静聴の時（13時～14時）

昼食後、一人ひとりがエフェソ書5～6章を読み、黙想する時を持ちました。

○恵みの分ち合い（14時～15時）

3グループに分かれ、今回示されたこと、自分にとっての課題等を分ち合いました。その後それぞれ祈りのカードの課題を記入し1年間祈り合うことにしました。

○充満の時（15時～15時30分）

西海満希子先生からエフェソ書1章15～23節をもとに、「教会の頭であるキリスト」という題でメッセージを頂きました。新会堂の建設を推進するこの時期に、思いを新たにされ恵みを頂いたアシュラムの時でした。

東調布教会アシュラムの報告

島　隆三師

東調布教会はスタンレー・ジョーンズの通訳などをされた小出忍牧師により長く牧会された教会だが、アシュラムを開催したことはなかった。筆者は2年半前に当教会に赴任して、今この教会に必要なのはアシュラムの恵みであると痛感し、去る7月上旬、第1回教会アシュラムを土曜午後から日曜午後まで、丸一日のプログラムで開くことが出来たことは感謝であった。初めてのアシュラムであるから、まず二つのファミリー（分団）が出来るように祈ったが、14名を超える参加者が与えられて感謝した。助言者には東京聖書学校から西海満希子師を迎え、全体を良くリードしていただいた。主題は「求めよ、さらば与えられん」として、マタイ福音書5章から7章の「主イエスの山上の説教」に静聴した。参加者は、ほとんどがアシュラム初参加であったので、無理にアシュラムの原則に固執せず、自分たちにふさわしいプログラムを立てて会を進めた。特に静聴の時間を大切にし、自分で聖書を読むことに努め、ファミリーの交わりを重視した。最後にそれぞれのニードを確認し合い、祈りの栞にそれを記して、1年間ファミリーの仲間のために祈り続ける約束をして終えることが出来たことは大きな感謝であった。1年間祈り続けて、どのような結果を見ることが出来るかが楽しみである。祈りは聴かれると信じ、祈り続けたい。許されたら、来年第2回の教会アシュラムを開き、その結果を持ち寄って、さらに祈りの教会として成長していくように、また、アシュラムの仲間も増し加えられるように祈っていきたい。筆者も、もう一度自らの生活におけるディボーションの時の大切さを再確認させていただき感謝であった。ご自身の祈りの生活の証を交えてよきお奨めをしてくださった助言者にも深く感謝している。

アシュラム予告

●第50回関西アシュラム

と　き　'16年10月9(日)～10(月)

ところ　母の家ベテル

助言者　工藤弘雄師（日本イエス・キリスト香登教会牧師）

●第51回九州アシュラム

と　き　'16年9月18(日)～19(月)

ところ　福岡黙想の家

助言者　安藤脩師（横浜岡村教会牧師）

●第48回城北アシュラム

と　き　'17年2月11(土)

ところ　日本ホーリネス池の上教会

助言者　アシュラム委員諸師

〒一八一-〇〇一一　三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座　東京〇〇一〇〇-一-四五五八